



ふれあい



この広報は赤い羽根共同募金の助成金で印刷されています。

編集発行

社会福祉法人 京極町社会福祉協議会

〒044-0121北海道虻田郡京極町字三崎68番地

TEL(0136)42-3681 FAX(0136)41-2031

Eメールアドレス

kyogoku-fukushi@blue.ocn.ne.jp

ホームページアドレス

<https://www.kyogoku-shakyo.or.jp/>

12月10日・17日の2日間で福祉センターのクリスマス会を開催いたしました。

サンタの会・コスモス・京極保育園・京極小学校のみなさんにご来所いただき、様々な催し物を披露していただきました。その後はお子さんたちと一緒にレクリエーションを楽しみ、ヘルパーSUNの会・どんぐりカフェボランティアの皆さんのが作成してくれたケーキとかふえもかさんの美味しいコーヒーをいただき、楽しい時間を過ごすことができました。



インスタグラム・フェイスブックでも適宜情報を発信しております！

是非ご覧ください！LINE友だち登録もよろしくお願いします。



総務課

ふれあい広場

8月14日に開催されたふれあい広場では、モルック大会や子ども縁日、体力測定など様々なコーナーに町内外からたくさんの方にご来場いただきました。



11月18日に開催された「第22回ほかほかまつり」は、雨にも関わらず、およそ400名のご来場がありました。

年々ボランティアとして参加してくださる方も増え、内容もどんどんパワーアップしています！

ほかほか まつり



寄付・寄贈に感謝いたします

【期間】令和7年5月～10月まで

【寄付】

- ・岡田 弓子 様 京極町でお世話になりました。
- ・古屋 清子 様 京極町の福祉の為に
- ・京極信友会 会長 渡邊 慎太郎 様 京極町の福祉の為に
- ・奥山 笑子 様 夫(奥山義据様)生前のお礼として
- ・宮内 敬司 様 母(宮内希代古様)生前のお礼として
- ・笹原 満雄 様 京極町の福祉の為に
- ・笹原 まゆみ 様 京極町の福祉の為に
- ・京極町商工会女性部 部長 赤間 真知子 様 社会福祉事業資金の一部として
- ・高瀬 俊二 様 母(高瀬佐智子様)生前のお礼として

- ・きょうごく楽しみ隊 代表 石井 秀和 様 京極町の福祉の為に
- ・中川 美恵子 様 夫(中川紀雄様)生前のお礼として
- ・奥野 栄子 様 夫(奥野勝幸様)生前のお礼として
- ・山田 時子 様 娘(山田紀子様)生前のお礼として
- ・佐々木 トシコ 様 夫(佐々木幸雄様)生前のお礼として

【寄贈】

- ・野村 正次 様
- ・大友 清子 様
- ・後藤 さよ子 様
- ・村上 正一 様
- ・宮内 敬司 様
- ・佐々木 京子 様

地域福祉課

町内の福祉活動を一部ご紹介します。

◎共楽クラブの活動報告

「全国一斉社会奉仕の日」

全国の老人クラブの取組ですが、京極町では共楽クラブ(老人クラブ)だけではなく、町内のボランティア団体に広く声をかけ中学校と合同で町内一斉ゴミ拾いを行っています。



◎身体障害者福祉協会の視察研修

今年は岩内町の就労継続支援B型サンライズに見学にいきました。



※就労継続支援B型とは、障がいを持つ方が一般就労の為のスキルや知識を身につける場所

◎ヘルパーSUNの会(介護職員初任者研修受講者の会)



災害時の避難所運営を疑似体験できるDoはぐを使った研修を実施。

◎ニュースポーツ・ふまねっとサロシ

毎週木曜日(5週目はお休み)13:30より、商工会館・福祉センターにて活動しています。見学お待ちしております。



◎市民後見人フォローアップ研修会

社協や専門家ではない町民の方が成年後見制度の勉強をして市民後見人として活動しています。



◎令和7年度福祉委員協議会



委嘱状交付、福祉委員の役割や町内の福祉サービスについて共有しました。

※福祉委員…気にかけて繋ぐ「町内会のパイプ役」です。
皆様の(気にかけ合い)が町内会の安心に繋がっています。

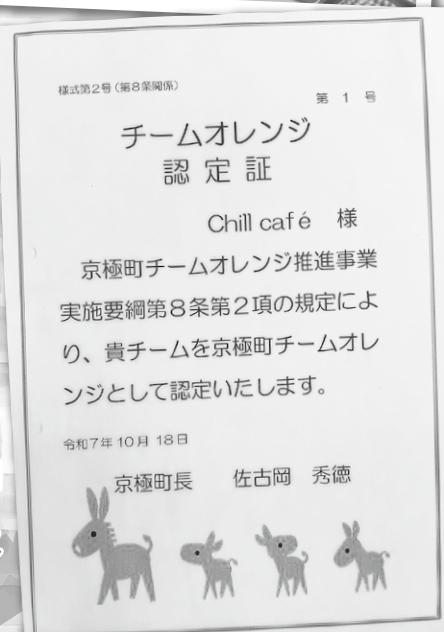
各団体の活動に興味ある方やもっと活動を知りたい、団体に入会したい方は、社協までご連絡ください。

【お問い合わせ】 地域福祉課

0136-42-3681

担当：保村・後藤・中村

居宅介護支援事業所



チームオレンジとは

認知症のある人が地域で安心して過ごすことができるまちづくりに寄与する活動を行う団体をいいます
これからもチームオレンジの取り組みを進めていきますので、ご声援をよろしくお願ひします
一緒に活動してくださる方も大歓迎です。ご興味のある方は下記までご連絡ください

京極町社会福祉協議会 居宅介護支援事業所・訪問介護事業所(福祉センター内)
認知症施策担当 佐藤・本間・山本(奏)・片桐 電話 0136-42-3681

デイサービスセンター

京極町デイサービスセンターでの取り組み

——笑顔が生まれる活動のひとコマをご紹介。——

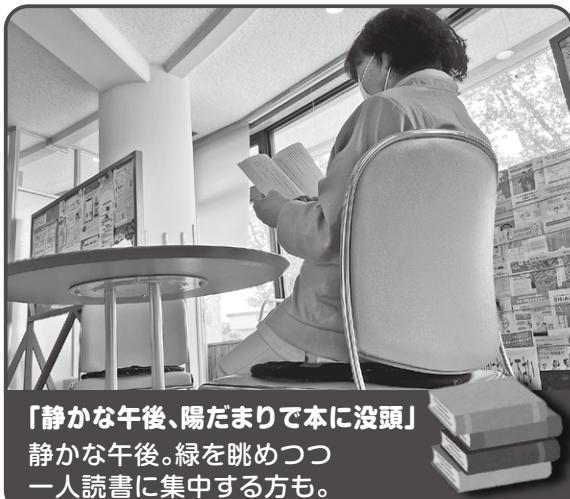


「青空の下、笑顔で足湯リフレッシュ」

晴天の中、利用者さんが
笑顔で足湯を楽しんだ
外出レクリエーションの一場面。

「みんなで画面体操。動きも息ぴったり」

つどいの場(三和会)の皆さんと
画面を見ながら、動きを合わせて
体操に取り組んでいます。



「静かな午後、陽だまりで本に没頭」

静かな午後。緑を眺めつつ
一人読書に集中する方も。

「楽しみながら自然と体が動く時間」

大きな丸テーブルを囲み、楽しみ
ながら自然と体を動かす活動風景。



「手塩にかけた大物さつまいもを収穫！」

手入れを重ねて育てた
大きなさつまいもを
笑顔で掲げる収穫の瞬間。

「念願の麻雀。笑顔はじける勝負の場」

ボランティアの協力で念願の
麻雀が実現し、参加者が喜ぶ場面。



地域支援介護予防センター

令和7年度 地域支援介護予防センター ~名場面~

つどいの場



8月に新たに「あけぼの会」が立ち上がり、現在14ヶ所のつどいの場が活動しています。

元気湧く湧くウォークラリー

参加者55名! 4-10月まで自身の健康のためにウォーキングを頑張りました。



シャキッとき会



週2回、1時間の運動で健康づくり。今年は体操動画を新たに作り直しました。月1回ヨガdayも!

介護支援ボランティア

つどいの場やデイサービス等様々な場所で大活躍! デイサービス畠ではサツマイモが豊作でした。



ふれあい広場



ボランティア協力のもと、ふるさとまつりで体力測定を実施。たくさんの方が参加してくれました。

中学校授業のお手伝い

ボランティア4名で家庭科の「浴衣着付け」の授業をお手伝い! 中学生と交流もできました。



新京極町内会 茶話会



集会所で茶話会を実施。みんなで集まり自分のこと・町のことを考え楽しく話し合っています。

助け合いネットワーク

町内で活躍中の担い手団体で集まり、活動を知り・補い合えるようネットワークをつくっています。



短期集中リハビリ訪問



3ヶ月間集中してリハビリを行い、見違えるほど歩けるようになりました。

今年度もありがとうございました。

これからもみなさんの健康づくりや参加・活躍の場をサポートしていきます!

地域支援介護予防センター 古市・三条・西尾・斎藤



あなたの財産が狙われているかも…



今年は「警察官を語る詐欺」などによる被害が全国的に増えています。

12月には町内で郵便局員を名乗る不審な電話があり、

防災無線で注意の呼びかけがありました。

皆さんの身近に迫る詐欺被害の防止に向け、
関係機関で協力し街頭で注意の呼びかけを行っています。



注意の呼びかけだけでなく、右図のような啓発資材もお配りしています。リーフレット、メモ帳は役場商工観光課でもらうことができます。身に覚えのない手紙や電話が来たときは、自分で判断せず家族や相談窓口へ連絡するよう心掛けましょう。

【相談窓口】

| | |
|----------------|---------|
| ようてい地域消費生活相談窓口 | 44-1600 |
| 京極駐在所 | 42-2830 |
| 京極町役場商工観光課 | 42-2111 |
| 地域包括支援センター | 55-8615 |



お問合せ

京極町地域包括支援センター(☎ 0136-55-8615)
相談専用メール／soudan65@kyougoku-shakyo.or.jp



謹賀新年

京極町社会福祉協議会 会長 清水耕策



明けましておめでとうございます。

昨年は共生型地域福祉拠点「きょう・ここ」の増改築がきまり、地域住民が互いに助け合う地域づくりが期待されるようになりました。

今年は少子高齢化に伴い社会保障費の増額が望まれるにもかかわらず、財政的に期待できそうにもありません。介護保険制度では事業所経営が困難になり、介護の担い手不足のため、介護サービスが低下しています。そのなかで、高齢者の命に直結する「身体介護サービス」は優先されますが、「家事援助サービス」がないがしろになりつつあります。家事の中で買い物、掃除、ゴミ捨てなどができるなくなると生活する上で困ります。今の介護保険制度では地域で生活できない人が増えてきます。

地域でお互いに助け合う仕組みづくりが必要になってきました。今年は、ボランティアセンターを中心に助け合いシステムをつくり、共生型地域福祉拠点「きょう・ここ」の「支え合いステーション」活動などを活性化していきます。今年も、京極町社協役職員一同頑張って参ります!!

第29回全国中途失聴者・難聴者福祉大会 in 函館・北海道に参加しました!

11月1日・2日に函館市で開催された「第29回全国中途失聴者・難聴者福祉大会」に社協役職員10名と難聴の会メンバー2名で参加しました。

1日目は4つの分科会に分かれて参加し、2日目は記念式典・記念講演が行われました。

●第1分科会「補聴援助機器で見えてきた未来」

AI技術や音声認識、Bluetooth新機能「Auracast」など、最先端の技術を体験しました。



●第2分科会「中途失聴者・難聴者の手話学習の場」

参加者の中には「手話が人生を明るくした」と語る声もあり、中途失聴者が障害を受容していくプロセスの難しさと、手話の価値が共有されました。



●第3分科会「『音から隔てられて』刊行から50年」

1975年の名著『音から隔てられて』の続編として『難聴を生きる』が発刊された背景と意義を学ぶ内容でした。健聴者が難聴者を理解し共に社会課題として取り組む必要性も強調されました。



●第4分科会「モルック体験」

手話・要約筆記・身振りなど多様なコミュニケーション方法が用いられ、交流の壁が低くなったことを体験しました。視覚的支援が充実しており、難聴者のスポーツ参加の可能性を感じる内容でした。

